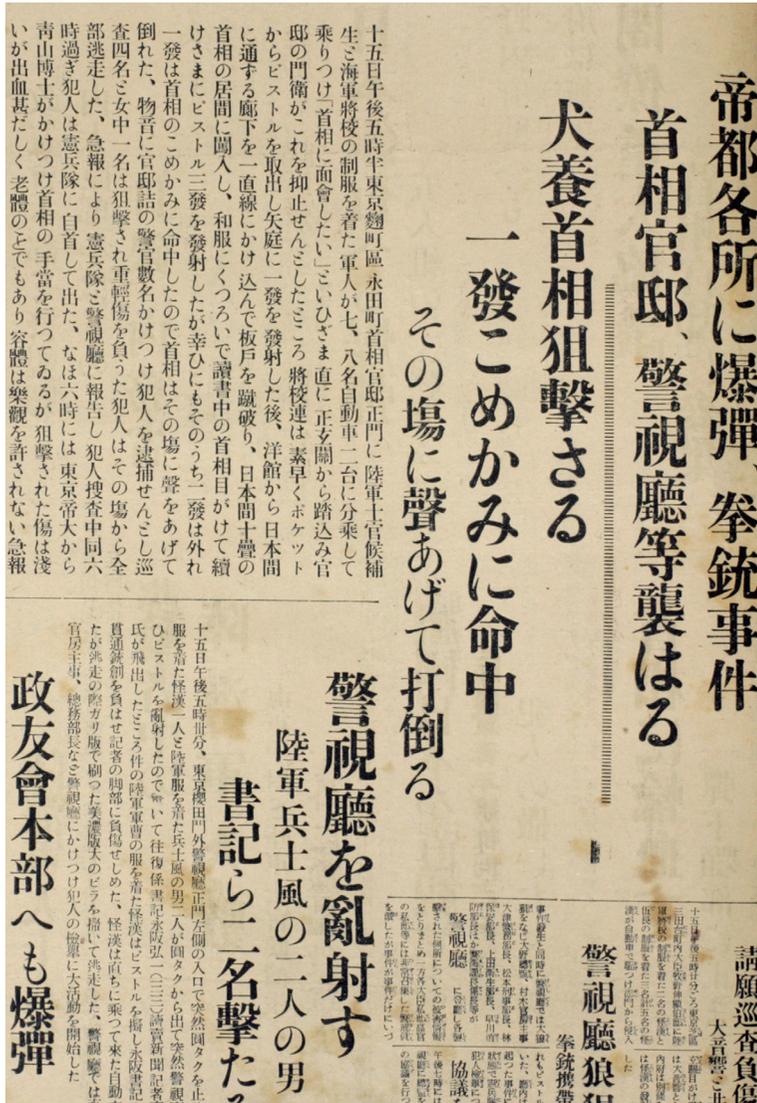


五・一五事件



* 新聞文庫 大阪毎日8「大阪毎日新聞号外」

解説

1932（昭和7）年5月15日、満州国承認に反対の立場をとっていた犬養毅首相が、海軍将校によって暗殺されました（五・一五事件）。ここに第2次護憲運動以後続いていた「憲政の常道」とよばれた政党政治に終止符が打たれました。後継の斎藤実内閣は満州国を承認しましたが、国際連盟はこれを認めず、そのため日本は国際連盟を脱退し、国際的な孤立を深めていきました。

左の写真は、五・一五事件についての毎日新聞の号外（第2報）で、首相官邸をはじめ警視庁、政友会本部などが襲撃されたことが報じられています。特に犬養首相が襲われた様子、閣僚が首相官邸に集まって重大な協議を行ったこと、「老体のことでもあり容体は樂觀を許さない」などの緊迫した状況を詳しく伝えています。

この事件については直ちに報道規制が敷かれ、陸軍省、海軍省、司法省の3省から事件の全貌が公表されたのは、事件後1年経った1933（昭和8）年5月17日のことでした。写真下はその公表全文を伝える毎日新聞の号外です。（新聞文庫 大阪毎日9）



* 新聞文庫には1923～37（大正12～昭和12）年の、大阪朝日新聞と大阪毎日新聞の号外が残っています。（新聞文庫 大阪朝日40～59・大阪毎日3～13）